

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200055		
法人名	医療法人栄仁会		
事業所名	栄仁会グループホームやまぎの郷 (もみじユニット)		
所在地	宇治市菟道段の上20-1		
自己評価作成日	2016年10月8日	評価結果市町村受理日	平成29年2月17日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=2691200055-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=2691200055-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>		

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1 ひと・まち交流館京都1階		
訪問調査日	平成28年12月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・接遇委員を中心に、外部の接遇研修に参加し、2ヶ月に1回内部研修を行い職員全体の接遇意識の向上に努めている。  
 ・年間6回の防災訓練を行っており、災害に対する意識が高い。  
 ・家族や本人の要望に柔軟に対応し、これまでの生活を出来るだけ続けて頂くよう心掛けている(馴染みの美容院の利用等)。月1回は花見やクリスマス会といった行事を企画し、個別でも買い物や映画を見に行くなどのレクリエーション活動も積極的に行っている。  
 ・自治会や消防団への加入、花笠巡行や地域納涼祭への参加等、地域とのつながりを大切にしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三室戸寺にほど近い山手に2階建ての落ち着いた風情の建物がグループホームやまぎの郷である。小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。平成20年に、医療法人栄仁会が開設された。おうばく病院を母体として、医療・福祉・介護関連事業を展開している。「地域で期待され信頼され住民の皆さまの幸せ作りに貢献できる病院をめざします」と法人の思いを表明されている。当事業所もこの「思い」を受け継ぎ「一人ひとりがそのひとらしく地域に根ざしたサービスの提供」を理念としている。言葉遣いや服装など接遇マナーの質をあげることで、一人ひとりを敬いやさしい支援に繋がられるように努めている。開設以来、8年の積み重ねを経て地域との関わりも深まってきている。事業所と地域の行事双方向で参加・協力しあって楽しみを共有している。事業所の広報誌「やまぎ新聞」で状況を公表している。自治会・消防団に地域住民として関わりを持ち、年6回の防災訓練を行って有事に備えている。一人ひとりの思いをそれとなく会話の中から聞き取り、その思いを外食やレクリエーションなどで実現する様に努めている。希望に応じて最後の見送りを事業所で行って家族などに感謝されている。家族・地域・職員の輪の中で、入居者は守られて穏やかな生活が保障されている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、理念を心に刻み込んでいる。また、ケアプランの作成には理念であるその人らしさを大事にし、名前を見なくても誰のものなのかが分かるプランを作成出来る様職員全員で考えている	事業所の理念を「一人ひとりがその人らしく地域に根ざしたサービス提供を」と表明している。来訪者の目につきやすいように、玄関に理念を記載した大きな額を掲げている。広報誌にも、理念を記載し本人・家族など・職員にも周知させている。職員は、理念に沿ったサービスを提供出来るように、一人ひとりの思いを大切に考え支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや花笠巡行等の行事に参加している他自治会、消防団への加入も行い、やまぶきの郷で行う消防訓練には消防団にも参加して頂いている。また、御利用者個人では、地域の集まりに入所されてからも引き続き参加されている方もおられる。	地域住民との交流が深まってきており、夏祭りや花笠巡業など地域のイベントに参加している。自治会・消防団に入って、地域の一員としての役割を持っている。近在の中学生や保育園児との交流やマッサージや活け花などボランティアの来訪もあり、地域とのつながりが確保できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域の中学校の体験学習を受け入れており、御利用者との接し方や介護用具の使用方法、認知症や介護の現状を学んで頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、小規模多機能型居宅介護と合同で行い、その場で出される意見は必要に応じて職員間でも話し合いを行い、ケアに役立てるようにしている。	会議には、自治会長・知見を有する住民・地域包括支援職員・行政担当者・小規模多機能とグループホームの利用者代表と家族代表の出席を受け事業所から管理者・介護職が参加している。両事業所から、利用者・入居者状況や活動状況・事故に関わる報告など行い、出席者で情報・意見交換を行っている。宇治市の防災訓練についての情報や地域のイベントなどの情報も得ている。また、地域において災害時用の備蓄の話題も出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員派遣事業を受けており、毎回最後に総括をし、改善すべき内容があれば、職員に伝達している。又、スタッフ会議にて介護相談員報告書を皆で振り返りをし、ケアに活かす努力をしている。運営推進会議においても、宇治市の職員の方のできる範囲で参加して頂いている。	市の担当職員が、運営推進会議に出席しているので、事業所の日常的な状況は理解を得ている。市の担当者からも情報を得て双方向での協力体制が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束についての研修を行い、意識が風化しない様になっている。研修では、身体拘束に伴う御利用者の疾患への影響から知らずにやってしまいがちな身近な拘束の事例等毎回趣向を変え、見方を代えながら拘束について学んでいる。	定期的に、身体拘束に関する研修を行い「身体拘束をしないケアの実践」に取り組んでいる。日常業務の中で、つい言ってしまう「入居者の行動を抑制するような言葉」を職員同士で注意し合っている。夜間のみセンサーマットを使用しているケースがあるが、後見人に説明し理解を得た上で行っている。職員には、センサーマットの正しい利用目的を周知させて、入居者の安全を確保している。3ヵ月で見直しを行っている。	

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを定め、職員が閲覧できるようにしている。又、拘束と同様毎年施設内にて研修を行う他、普段の着脱介助、入浴介助等で体にあざ等ないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、数名の方が後見制度を利用されており、これからさらに増える可能性がある。後見人には何が出来て、何が出来ないのか、職員もまだ不勉強な部分があるので、施設内での勉強会で後見制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、契約後も必要に応じて契約時の内容を繰り返し説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度アウトカム評価を行い、契約後も必要に応じて契約時の内容を繰り返し、説明をしている。	入居者の要望などは、日常的に会話などから汲み取っている。家族などからは、来所時や運営推進会議に家族代表が出席しており意見など聞いている。家族会も年2回開催し、お互い家族同士の交流と共に意見交換の場ともなっている。各ユニットに親しみのある名前を付けられたとの意見から、入居者・家族に公募し職員も参加してユニット名を付けた経緯がある。食事介助に来所されたり、年末には大掃除をして貰っている。事業所と家族などがしっかりと協力関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやスタッフ会議に管理者にも参加を促し、希望があれば直接言える機会を確保している。	日常的には、朝・夕の申し送りや業務の中での気づきを話し合っている。定期的に行なうスタッフ会議や全体職員会議でも、情報・意見交換を行っている。入居者に対する支援方法などモニタリング的な事も話し合っている。入居者の状態の変化などから入浴方法(リフト浴)を検討したりもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面接を行い、意見をくみ上げ、環境整備に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、各職員は希望する研修計画を作成し、法人等から紹介される研修又は個人で探してきた研修に参加する形をとっている。研修参加後には職員に伝達研修を行い、自分だけでなく施設にフィードバックできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内ではあるが、教育委員会の研修では同職種者と新入者研修では他部門との交流を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを用いて御本人の言葉を拾ったり、御家族から情報を頂き、その人らしく生活できるサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式シートをもとに、家族の思いを知り、サービスに繋げるとともに、家族もチームの一員であるという意識をもって頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズによって同施設内にある小規模多機能居宅介護、または居宅介護支援の利用を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりやセンター方式シートからの情報をもとに、一人ひとりの得意分野・性格を知り、御利用者が一員であると感じて頂ける関わりをもって		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・運営推進会議・消防訓練・行事等への参加の機会を設けている。自宅に帰り、家族と家で過ごす時間を作ったりと、つながりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰り家族との時間を過ごして頂いたり、住んでいた地域の老人会に毎月参加して頂いたり、馴染みの関係が途切れない様に努めている。	入居者の友人や知人も高齢になり来所の機会は少なくなっている。地域のイベント(納涼祭)に出かけたり、老人会に継続して参加されている入居者もある。(老人会の会長が広報誌を届けて下さる)墓参りや馴染みの喫茶店に出かけてもいる。併設の小規模多機能の利用者とも新しい馴染みの関係が出来てきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者の性格や相性を考え、配置の工夫をしている。集団での生活が苦手な方は、個人テーブルの活用でくつろぎの空間づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行先への相談に応じたり、経過をフォローすることで再入所して頂く場合もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ちを中心に、日々の生活の中での言動をもとに、御利用者の希望・思いに気づき、その情報をチームで共有している。	初回面談で、本人・家族などから生活歴や心身状況・これからの生活の要望など聞き取って記録している。在宅時の担当介護支援専門員からも情報を得て追記している。入居後は、日常生活の様子から気づきを記録し、その人の思いを支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族に、センター方式シートの記入をお願いしている。御利用者からも、昔の話を伺い、細かな情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動への参加には随時声掛けし、希望があれば参加頂いている。心身の状態に変化がある際は看護師、場合によって御家族・主治医と連絡を取り現在の状況を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち同士で話し合い、そして、週一回のスタッフ会議で課題を挙げ、他職員の意見にも耳を傾けながら、より良いケアにつながるよう努めている。	日々の支援記録をもとに、定期的にスタッフ会議を開いて意見交換を行っている。サービス担当者会議には本人・家族などの同席を求めている。欠席の場合は、電話で要望を聞き取っている。医療関係者からは、事前照会で意見をj得ている。それぞれの立場の関係者からの意見を纏めて現状に即した介護計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には、センター方式シートを活用し、分析を行っている。ケアの工夫で上手くいったことがあった際には申し送りや伝達し、その場限りのケアにならないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同施設内の小規模多機能施設で行われるレクリエーションへの参加を促したり、スタッフと買い物に出かけたり、一時帰宅頂く等、施設内での生活だけにならないよう配慮している。施設の活性化を図る為にも様々なボランティアの受け入れを図っている。		

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや近隣施設の催し物に参加して頂いている。地域保育園児との交流・学生の職場体験の受け入れをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察を受けている。体調不良時、家族や本人が希望される際には主治医と連携を取り、緊急訪問診察や他科への受診を行っている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの希望に沿っているが、事業所で契約しているクリニックから週2回の往診(内科)により健康管理を担ってもらっている。24時間体制が確保できている。眼科や耳鼻科など専門医への受診にも支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中一名は、看護師が出勤している体制を取り、御利用者の状況を把握している。夜間も、看護師が常に専用の携帯電話を所持しており、連絡・相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	御利用者や家族には、予め、希望する病院を聞き、入院時にスムーズに移行できるようにしている。又、入院後も面会に伺い、入院先の看護師との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに関する研修を行いグループホームでの看取りについて定期的に話し合いを行っている。入居時や家族会等の機会に、御家族・ご本人に看取りに関する聞き取りを行うとともに、気持ちの変化に対応出来る様、年に一度は看取り期の対応について再度確認するようにしている。	重要事項説明書に「医療が必要になった場合、病状が重度化した場合の姿勢」「看取り介護に関する姿勢」として記載しており、契約時に事業所の考えを説明している。さらに、年1回、書面で家族の意志確認を行っている。事業所での看取りを希望された場合には、医師・看護職・介護職・家族などが協力して実現している。過去に3人の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故時の研修を職員全体で行っている。また、AEDの研修も受け、職員全員に設置場所の把握・使用方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が地域消防団に入っており、2ヶ月に1回施設全体で防災訓練を行い、時折ご家族や地域の方にも参加を促す等、意識を高めている。災害の研修も行い、災害担当職員が備蓄管理している。	年6回の防災訓練を実施している。その内2回は消防署職員の協力を得ている。夜間の火災を想定して行っている。自治会会長や地域の消防団の協力もあり土曜・日曜日に訓練を入れている。災害用備蓄は3か所に分けて保管している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーに力を入れており、接遇委員中心に職員全体で研修を行っている。又、スタッフ会議では、ユニットの月目標を決め、全員で向上する意識を持つようにしている。プライバシー保護・コンプライアンス研修も行っている。	一人ひとりを敬い、プライバシーを損ねないように職員の服装・言葉遣いなど接遇マナーを大切にしている。研修も行い全職員に周知させている。特に入浴や排泄の介助時の声掛けや誘導などには、プライドを傷つけないように、羞恥心を抱かせないように十分配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、御利用者に関わりを持ち、御本人の希望や思いをくみ取っている。又、思いを伝えることが難しい御利用者からは御家族の思いや以前の暮らしを伺い、希望に添える様、心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、職員の都合に合わせてではなく、その方に合ったペースで過ごして頂いている。買い物や映画等、その方からの希望があれば、その都度お連れしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から、髪を整えたり、ひげをそったり、清潔感を保って頂いている。レクレーションがある日や外出日は特に、おしゃれな服を着て頂いたり、女性はお化粧品やネックレスをつけて頂いている。買い物に行った際には、好みの服を選んで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを尋ねたり、御利用者と一緒に買い物に行き、食事を考えている。可能な方には、下膳や洗い物をして頂いている。又、お誕生日の時にはその方のお好きな物、食べたい物をメニューに取り入れている。	食事が楽しい時間であるように、健康を維持できるようにバランスのとれた食事内容になっている。必要カロリーも充足出来ている。献立は、入居者の希望を取り入れており、準備や後片付けなど出来る事を職員と一緒にしている。肉類やすしの好みが多く、外食には希望を叶えられる店を選んで満足して貰っている。希望に応じて乳酸飲料を個人購入として対応し、冷蔵庫の一部を利用者個人利用のスペースとして確保している。	献立表が、リビングの壁面に貼られていますが、字が小さく上の方に貼ってあり、入居者には見えにくいので、その日の献立を大きく見やすくする方策を工夫されたら如何でしょうか。車いす利用の方の目線にも配慮をお願いします。献立を見ることで、楽しみが膨らむ事でしょう。話題づくりにもなると思います。入居者に記載して貰うのも一方法かも。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立が重ならない様に、毎日献立を記入している。野菜を多く使用する、塩分を取り過ぎないように汁物は一日一回にする等、気をつけている。体重増加傾向の方には、御茶碗を小さめにしたりと工夫している。水分も毎食コップ一杯飲んで頂く様心がけている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の嚥下体操を行い、誤嚥防止に努めている。歯が残っている方には、訪問歯科による訪問衛生指導を定期的に行い、結果をふまえ、歯磨きの援助を行っている。また、義歯の清潔保持のための義歯洗浄剤の使用の援助も行っている。			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式シートを活用し、排泄パターンの把握に努め、個々の排泄リズムに添って声掛けや誘導を行っている。排泄リズムを把握することによってリハビリパンツから布の下着に変更になった方や、パット使用を減らすなど自立に向かえるよう支援している。	個人の排泄パターンの把握により、適宜その方に合った時間に声掛けや誘導を行うことで、トイレでの排泄を支援している。その結果、排泄用品の使用が少なくなり、入居者本人の爽快感と共に経済効果ももたらしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品やヤクルト・バナナなどを召し上がって頂いている。日中の水分量も配慮し、10時・15時の補水を促している。食事では野菜を多くとって頂けるよう、調理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を気にされている方には、その日に入浴して頂く様にしている。立位保持が難しい方には、小規模多機能の機械浴に2人介助にて入浴して頂いている。家族が持ってこられた入浴剤を好まれている方には、入浴剤を入れ、楽しんで頂いている。季節を感じて頂けるよう、柚子湯や菖蒲湯なども行っている。	入浴は、気分よく楽しめるように体調や希望を尊重している。その方の身体能力に応じて、安全に介助するために機械浴を活用し、職員も二人体制を取っている。希望に応じ入浴剤の使用や季節でのゆず湯や菖蒲湯を提供して楽しい入浴時間に行っている。同姓介助を基本にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室で過ごすようにテレビや冬場はこたつを置き、なごんで頂けるようにした。日光浴や園芸を楽しんで頂けるように玄関先にベンチを置き、花を植えてゆっくり過ごして頂けるように工夫した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録ファイルにお薬リストをファイリングして、全職員がすぐ見られるようにした。主治医・看護師・薬局と連携をとり、薬が変わった時は、すぐ分かるように服薬箱に変更の日時・薬名を記入してもらうよう、薬局に依頼し、セット時は職員も確認するようにした。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年、家事労働をされてきた方には、職員と一緒に調理・園芸など出来る事を支援している。嗜好品(菓子・コーヒー)を本人の希望でお出ししている。スポーツ観戦がお好きな方にはテレビ放送のある時には観て頂いている。生花が趣味の方には、生花の先生に月2回ボランティアをお願いして参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の関わりの中から、希望している外出先などを伺い、映画鑑賞や外食などの外出レクレーションを季節ごとに行っている。意思の疎通の難しい方には御家族に相談し、自宅に帰り、家族で過ごして頂くレクレーションを行った。	日常の会話の中から、外出の希望を聞き取り実現に向けて支援するように努めている。花見など季節のお出かけや喫茶店・回転すし・ファミリーレストランなど希望に応じて外食に出かけている。映画好きの方には、映画館に出かける事もある。暖かく天気の良い日には、事業所の前庭(駐車場を兼ねている)で、日光浴をしながら遠景を眺めて気分転換を図っている。	

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (もみじ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自お小遣いを金庫で管理し、買い物・外食等御家族に連絡の下、自由に使えるようにしている。御家族・本人の希望で財布を持っておられる方は御自分で持っているお金を使って頂いている。御自身で財布を持ち、お金を使う事によって安心感・社会的地位の保持になっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直筆で書かれた文章にスタッフが一言添えて投函の支援をした。手紙のやりとりや電話でお話される手伝いをしている。ご自身の携帯電話で御家族に連絡を取っておられる方もおられる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や中庭に季節の花や野菜を植えたり、正月飾りやひな人形など季節感のある空間作りを行っている。月に2回、生け花の先生をお呼びし、御利用者で季節の花を活けている。キッチンで調理をしながら、会話したり、家庭的な中で居心地良く過ごして頂けるように配慮している。	玄関を入ると、季節の花が活けられ小さな人形の飾り物が品よく並んで訪れる人を温かく迎え入れている。リビングには、いくつかのテーブルに分かれておしゃべりしている入居者の姿があり、大きな窓から中庭が眺められて開放感がある。リビングに続く和室は、床暖房にして炬燵を置き、ごろ寝もできるようになっている。全体を和風の雰囲気纏め、落ち着いた空間が作られている。部屋の隅には水槽があり、熱帯魚がゆったりと泳いでいるが、入居者によってそれぞれ名前を付けてもらって可愛がられている。不快になるような臭いもなく、適度な室温となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にこたつを置いて気の合った人と歌唱をしたり、テレビを見て頂いたり中庭に野菜を植え、家庭菜園を楽しんで頂いている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者はタンスやテーブルなどの使い慣れた家具や、テレビやラジオを置いて、自由な時間を過ごして頂いている。御家族の写真や孫様の絵を飾ったりされている。家具の耐震なども考慮した安全な居室作りを支援している。	居室には、馴染みの家具を使いやすいように配置して住み心地の良いようにしている。整理整頓されていて清潔感がある。一人でゆっくりした時間が過ごせる空間が確保されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のための手すりを持った移動の声掛けや、調理・食器洗い・洗濯物たたみ・ゴミ集め・水やりなど「できること」への支援をしている。			